

## ニッポンの変毒為薬を！

10年前の9・11が世界のその後を変えたように、今年の3・11が日本のその後を大きく変えていくことは間違いないでしょう。戦後最悪の事態。原発の影響性を含め、復興も長い道のりが予想されます。幸いにも各国メディアは、災害時における日本人の冷静さや助け合いの精神を称え、多くの国が援助の手を差し伸べてくれています。今こそ日本人の底力を発揮していくときだと私は思います。



テレビや新聞の報道を見ながら、自分たちが応援できることは何かと考えると、現時点では義援金でしょう。実は、3月17日は私の古希の誕生日でした。70年に一度（あたりまえですよ！）のことなので、近くのホテルのレストランで、ささやかながらちよっぴり贅沢な食事を、なんて予定していました。でもそれを取り消しました。その金額をそっくり被災者向け募金窓口に振り込んだのです。健康で生きているだけでも幸せなこと。ちっちゃな自分のことを祝うよりもはるかに意義が深く、自分でも心が満たされた気持ちになったものでした。その後も関係の団体や機関にわずかながらでもしてきています。募金はあくまでも本人の気持ちですが、多くの真心の支援があることを願うものです。

ボランティア元年と言われた阪神・淡路大震災から日本人のボランティア活動も、かなり広がりを見せてきました。でも“自分のことだけしか考えない”人がまだまだ多い。

都知事が「我欲、物欲、金銭欲を一度洗い落す必要がある・・・」と発言しました。「天罰」発言は決して許せるものではありませんが、その通り、残念ながら現在の日本社会では自分のこと（我欲）ばかりを追い求めている人がいるのも事実です。

阪神・淡路大震災のときもそうでしたが、被災地では創価学会の多くの会館が避難所として提供されています。でもより苦しんでいる人のサポート会員でない方も必死で頑張っている方が多く、困っている在日外国人



ですが、被災地では創価学会の多くの会また現地の会員は自分の被災をさしおいと激励に駆け回っています（もちろん、す）。私自身は今、被災して日本語がよくのためのボランティア翻訳に参加している

私が信奉する日蓮大聖人の仏法には次のような言葉があります。

「蔵の財よりも身の財すぐれたり身の財より心の財第一なり」。「蔵の財」とは財産やお金、モノ。「身の財」とは身体や健康、資格など。「心の財」とは生きる意志や他人を思う慈悲の心。ポイントは仮に最初の二つが崩れても、「心の財」があれば必ず未来を拓いていくことができる、との力強い教えです。

文明の発展が即人類を幸せにする、モノの豊かさが即人間の幸せにつながる、といった考えは抜本的に改める必要があります。日本は今こそ社会のあり方、人間としての生き方を根本的に問い直す絶好のチャンスではないでしょうか。

モノから心へ。多くの日本人がこの生き方に目覚めたとき、大災害も日本の将来のために大きく「変毒為薬（毒を変じて薬と為す）していく因になっていくと確信します。ニッポン再生の大切な一面であり、精神の復興につながっていくと思うのです。

